

2020年8月実績概要(メモ)

(2020.9.17)

エチレン生産が前年比微減となるも、誘導品は定修や稼働率要因からこれに追いつかず。

1. 生産動向

イ) エチレン 543,000トン

前月比 + 8.4% (+42,200トン)

前年同月比 ▲ 1.5% (▲ 8,100トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	-	-
定修要因等	+10.8%	+0.6%
能力増減	-	+0.1%
稼働率変動	▲ 2.4%	▲ 2.2%
生産増減率	+ 8.4%	▲ 1.5%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月93.8% → 当月91.7% ← 前年同月93.7%

定修プラント：前月 3社3プラント → 当月 なし ← 前年同月 1社1プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、定修規模の縮小や稼働率要因からHD、PP、塩ビモノマー、EG、BR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの10品目がプラス。SM、AN、SBRなどの7品目はマイナスとなった。

前年比では、主に稼働率要因や定修規模差からLD、HD、PS、SM、塩ビ樹脂、EO、EG、AN、SBR、BR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの15品目がマイナス。塩ビモノマー、MMAモノマーの2品目のみがプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況(LD、HD、PP、PS)

イ) 生産

前月比では、HD、PPは定修規模の縮小や稼働率要因から大幅なプラス。LD、PSは定修規模の増加もあり微減となった。

前年比では、主に定修規模の差や稼働率要因からLD、HD、PP、PSのいずれもマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比は、例年の通り、夏季休暇に伴うユーザー側の稼働日数の減少もあり、4樹脂ともに大幅なマイナスとなった。

前年比においても、4樹脂揃ってマイナスとなり、引き続き近年の出荷量としては低レベルの出荷となった。分野別の出荷動向としては、ポリオレフィンでは、主用途のフィルム分野で、LDは減少幅の縮小がみられたが、HDは依然として低調、また、PPは前月に一時的な増加がみられたが、当月では再び前年割れとなった。フィルム以外の用途では、PPの射出成形分野の出荷が輸送機械産業の操業の正常化の動きに沿って減少幅の縮小などが見られた。PSは包装分野の出荷が前年並みに落ち着く一方で、雑貨・産業分野等の減少からマイナスとなった。

ハ) 輸出

前月比では、ポリオレフィンでは通常レベルの輸出に戻りつつある。当月は前月にやや減少したLDが若干のプラス、逆に前月に増加したPPは当月はマイナス、PSは前月に続いてのマイナスとなった。

前年比では、前年の輸出が総じて低レベルであったこともあり、LD、HDはプラス、PPのみがマイナスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、HD、PP、PSで増加した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLD、PPは低下、HDは前月並み、PSは上昇した。在庫水準としては、LD、HD、PSでやや高め、PPはほぼ適正水準に落ち着きつつある。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率(単位:ヶ月)	
		7月末	8月末
LD	+13,500	3.4	3.3
HD	+17,300	3.2	3.2
PP	+41,200	3.0	2.9
PS	+5,500	2.0	2.1

以上